

2023年8月26日

電機連合長野地方協議会第71回定期大会挨拶

議長 山口 正巳

電機連合長野地方協議会第71回定期大会に、県下各地よりご参集をいただきました代議員の皆さん、傍聴者の皆さんに感謝を申し上げます。

また、本日は、休日にも関わらずご多用の中、電機連合本部より山鹿書記次長、長野県労働者福祉協議会 中山理事長はじめ、多くのご来賓の皆さまにご臨席いただいている。後ほどご紹介し、ごあいさつをいただくが、日頃のご指導とご厚誼に対し、組織を代表して心から感謝と御礼を申し上げます。

大勢のご来賓をお迎えして定期大会を開催するのは4年ぶりであり、地協の活動も昨年の定期大会以降、新たな体制のもとでコロナ禍の窮屈な活動から、少しずつ従来の形に近づけてきた2022年度であった。

本定期大会は、そんな一年間の活動を振り返り、反省と課題を踏まえ、新たなウイズコロナの時代に向けた運動方針の議論をしていただくが、私たちを取り巻く環境や課題・諸情勢と運動方針の一部に触れてあいさつにさせていただきます。

まず、近年頻発している自然災害について、

2011年3月の東日本大震災、長野県北部地震以降、毎年のように大きな自然災害が発生している。県内でも、直近では2019年10月の台風19号により千曲川とその支流が氾濫・決壊し、長野市や上田市、飯山市などで住宅の浸水や鉄橋の崩落などが発生し、電機連合の仲間も被災したのは記憶に新しいところである。本年も、西日本を中心に台風や線状降水帯による大雨で、河川の氾濫や土砂災害などにより甚大な被害をもたらしている。お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災されたすべての皆様にお見舞いを申し上げます。

電機連合としても「自然災害発生時の行動マニュアル」に従い、被災地域のニーズを踏まえ迅速な支援活動をすることとなっている。一朝有事の際は、支援カンパの取り組みをはじめ皆様のご支援とご協力をお願いするとともに、万が一の時に自らの生活を守るために電機連合の共済をはじめ、労金、こくみん共済coop、住宅生協などと連携した福祉の取り組みにも一層力を入れていきたい。

国連のグテーレス事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と警告している。少なからず自然災害に影響を及ぼしているこの状態を何とかしなければならぬ。電機連合の基本理念である「美しい地球・幸せな暮らし」を守るため、今、自分たちができることをしっかりやっつけていかなければならぬ。

次に、私たちを取り巻く社会情勢について、

ロシアのウクライナ侵攻に端を発し、エネルギー価格や食料品の急激な高騰に加え、アメリカと日本の金融政策の違いなどで円安が進んだことにより、輸入食料品や各種原材料、資材の高騰に拍車がかかり、結果として消費者物価指数は約40年ぶりの高水準となり、私たちの家計を直撃している。今後、ウクライナでの戦争が激化すれば、さらに食料品やエネルギー価格が高騰すると見られている。ウクライナの人々のためにはもちろんのこと、私たちの生活のためにも一日も早い戦争の終結を願う。

一方で、2023年総合労働条件改善闘争は、そうした私たちがこれまで経験したことの無い物価

上昇局面とコロナ禍から回復が続く電機産業の業況に加え、生産年齢人口の減少に伴う慢性的な人手不足の解消が追い風となり、企業間のバラツキはあるものの全体的には30年ぶりの高水準での賃金水準の改善となった。それぞれの労使における真摯な協議にあらためて敬意を表するとともに、物価上昇にまだ賃金水準の引上げが追い付いておらず実質賃金が減少し続けている現状を踏まえ、来年以降もこの賃上げ気運を高めて協議を進めていただくことをお願いしたい。

次に政治関係について、

この間、皆さんに本当にお世話になった矢田わか子前参議院議員は、昨年7月の参院選で残念ながら議席を失って以降、これまで電機連合の政治アドバイザーとして活動してきたが、7月末日を以って退任した。これまでのご支援に改めて感謝する。今後は、出身のパナソニックへ戻り新たなステージで活躍される。

なぜ労働組合が政治関わるのか。それは、私たちの生活と直結しているからに他ならない。矢田さんを落選させてしまったことは、私たち労働者にとって、そして電機産業にとって大きな痛手である。2年後、電機連合としての擁立を含め、参院選とどう向き合うかはまだ分からないが、電機連合として候補者を擁立した場合は、何としても私たちの代表を国会へ送るべく、これまで以上のご支援とご協力をお願いしたい。そのためには、今から「政治活動の日常化」に努めることが重要である。各級選挙の取り組みと併せてお願いしたい。

さて、2021年に経営統合により誕生した、東御市の日立アステモ労働組合と上田市の日立アステモ上田労働組合が、今年の10月以降に自動車総連から電機連合へ産別変更する予定となっている。その際には、皆さんとともに歓迎したい。

結びに、電機連合長野地協は1953年9月1日に電機連合の4番目の地方協議会として設立された。設立当初は、新潟と長野が一緒になり「信越地協」としていたが、新潟が分離独立し、私たちは長野地協となり、今年の9月1日で設立70周年を迎える。

第2号議案で、準備委員会から実行委員会へと移行し、本日以降の記念行事を提案するが、記念行事の成功に向けて皆さんのご理解とご協力をお願いしたい。

また、コロナ禍で延期していた労使フォーラムにおける5年に一度の海外視察も、世話人の会社側と相談しながら実施したいと考えている。実現した際には、多くの皆さんの参加をお願いしたい。

引き続き、運動の原点に立ち返り、職場組合員の共鳴につながる取り組みを進め、組織力強化を図り、労働運動に求められている今日的課題に積極的に取り組んでいきたいと考える。

本定期大会は限られた時間ではあるが、代議員の皆さんの活発な議論をお願いしたい。